

文科省の萩原補佐が現状報告を 6 分程で説明した後、4 分弱の質疑応答があり、其の後第 30 回の議事録が承認された。

池上委員長:最初の愛称について、野本さん、何かご意見御座いますか。

野本:此の愛称は、**毎回付けると云う事になるのでしょうか**¹?

萩原補佐:エエト、多分、日本の場合は一回付けたら、後は何号と呼ぶんだと思いますが。

野本:一回一回ではなくと云う事ですか。其れは未だ決まっていんですか。

萩原補佐:(**暫し資料を確り読み直す**)恐らく HTV 自体の愛称なんで、各号機毎ではないものと認識してます。

森尾:一号機はどうして...(マイクを通さないので聞こえない)

萩原補佐:エエトですネエ、一号機は一応試験機扱いですので...あの、日本の場合その、前にその、H- ロケットに愛称をつけようと言う話があった時ですネ、エー、チャンとその、運用...オペレーショなるになってから名前を付けようと言ったところに色々あってですネエ、ロケットには未だ愛称が付いてないんですが、此れも同じ様な話で、まあ、一号機は一応試験機なので、まあ、順調に其れが上がったのを確かめ

¹ ヨーロッパの補給機 ATV の場合、1 号機に「ジュール・ベルヌ」、フランスの文学者、2 号機に「ヨハネス・ケプラー」、ドイツの天文学者、3 号機が「エドワード・アマルディ」、イタリアの物理学者と云う風に人の名前を付けた事が紹介され、そこで、此の様な質問をされたと思われる。

てから、やっと愛称を付けると云う事になったものと認識してます。

池上委員長:他、何かコメントが御座いますでしょうか?...はい、どうぞ。

森尾:エエト、「かくや」の後継機、今、想定されてる打上げ...ムニャムニャ。未だ、其処まで...

松尾参事官:あのー、2 週間前の JAXA の検討状況の中でもですネエ、エエト、あの、未だ、所謂 SELENE プロジェクトについては、未だ研究フェーズを暫く続けなきゃいけないと云う事で、開発研究フェーズに入るには、その、プロジェクト化になって居ないので、未だ明確な打上げ年度って決まっていない状態です。未だ議論中だと思います。

森尾:でも、此れ見ると内容が似てるから、**此の発表で影響を受ける**²と云う事は?

松尾参事官:エー、いえあの、元々インドがですネエ、ま、中国、インド辺りが、2013 年位に打上げる、チャンドラヤーン 2 を打上げると云うのは、もう、内々何となく分かっていましたの

² インドが月探査計画を発表したので、日本の月探査計画が影響を受けて、計画が早まるかも知れないとお考えなのだろう。宇宙活動に関しては、「競争」と云う捉え方をしている政府が無い訳ではないが、欧・米・加の各政府は「協働」と云う捉え方をしている。勿論、其のプロジェクトに参画している企業には「競争」の意識があってもおかしくはない。日本政府は「競争」と「協働」のどちらだと考えて居るのだろうか。小職は、「協働」を行ないながら「貿易管理」を意識して居る状態が、好ましいのではないかと考えている。

で、公表前から。此れ等も踏まえて懇談会の議論もされて
いましたし、JAXA も検討してるので、此れをもって直ちに
どうこうって云う事は無いと思います。

池上委員長:あの、戦略本部の決定ですと、アレですネ、一番最
後。此れは月探査なんですけど、「国際協力による効率的な
実施や、実施時期などについて柔軟に対応しつつ、着実
に推進する。」と云う風には書いて御座いますけどネ。

森尾:エエトネエ、此れ、日本も、何れにしる単独でやるのか、ム
ニャムニャ、検討の余地は未だあると云う事ですか。

松尾参事官:検討の余地があると思います。当にあの、国際協力
で、どう効果的、効率的と言っても良いですが、やるかと云
う事も含めて、良く、もう一寸研究・検討を続けましょうと云う
主旨ですので、JAXA もそう云う風に認識してる、本部もそ
う云う風に認識してると思う事で、もう一寸具体化するのに
時間を下さいと。斯う、今なってます。

池上委員長:宜しいでしょうか。エエト、それではですネエ、後あ
の、前回の議事要旨が御座いますんで、斯う云う事で宜し
ゅう御座いますでしょうか。...有難う御座いました。それで
はあの、第 31 回の宇宙開発委員会を、此れを以ちまして
終了致します。どうも有難う御座いました。